

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

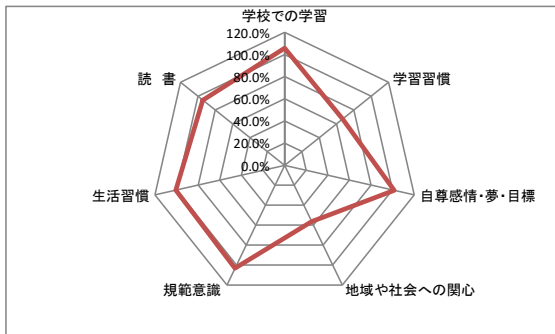
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域「話すこと・聞くこと」に関する問題は、全国平均・福岡県の平均をやや下回っているものの、「書くこと」「読むこと」に関する問題の正答率は全国平均・福岡県の平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	意見文の下書きを直した意図を選択する問題や文章中の動作が誰によるものなのかを読み取る問題が大きく平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	話し合いにおいて、誰がどのように発言するのがよいか、またその理由を書くことや、正しい敬語に改めることに課題が見られる。	

数学	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領のいずれの領域(数と式・図形・関数・資料の活用)においても全国平均・福岡県の平均を上回っています。とりわけ「数と式」「資料の活用」においては、平均を大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	整数の加法・減法の計算や目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりしてその事柄が成り立つことを説明する問題が平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	関数の意味の理解や与えられたデータから中央値を求める問題に関して、課題が見られる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○…成果 ●…課題	
〈学びの育ち〉	
○	学校での学習においては、自分の考えを伝えたり、課題の解決に向けて自ら取り組んだりする生徒の割合が大きかった。
●	自分で計画を立てて勉強していると答えた生徒は、約半数と全国平均を大きく下回っている。見通しをもって学習に取り組んだり、計画的に学習を進めたりすることで、家庭での学習時間や質のさらなる向上につながると考える。
〈心の育ち〉	
○	基本的な生活習慣が整っている生徒の割合が大きい。携帯電話やスマートフォンの使い方についても、お家の人と約束を守っていると答えた生徒の割合が全国平均を上回っている。
●	地域や社会への関心が下回っているが、戸畑祇園山笠を始め、多くの地域行事が新型コロナウイルス感染防止のために中止になったことによる影響だと考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語に関しては、本文の内容の読解にとどまらず、それに対する自分の意見や根拠を述べる(記述する)学習活動を継続してまいります。数学に関しては、計算や方程式の解き方を理解するだけでなく、文章問題に対して、どの場面で活用できるのかを考えたりする学習活動に継続して取り組んでまいります。

② 家庭生活習慣等に関する取組

早寝・早起き・朝ごはんという基本的な生活習慣は十分に確立されています。進路実現に向けて、遅くまで勉強に取り組むことも増えると考えられます。学習計画だけでなく、家庭での過ごし方も見直し・計画性をもって取り組むことで、睡眠時間が確保できるようお声かけをお願いいたします。